

レポート & インタビュー



生涯学習推進員さんに聞く

「3年間のこと、 そしてこれから」

新型コロナの感染が広がった令和2年度から活動が実質休止状態となった生涯学習ルーム。

平野区生涯学習推進員のみなさんの3年間とこれからのことについてお聞きしました。

新型コロナ禍が他の社会生活同様に、地域の生涯学習に及ぼした影響は計り知れません。さまざまな学びの場が一斉に機能停止し再開の見込みの立たないまま状況が変化するのをただ見守るばかりの時間が過ぎました。そしてこの春5類感染症への移行にともない、生涯学習ルームの再始動が聞こえてくるようになりました。

そんな中、「平野区生涯学習ルーム活動発表会」が4年ぶりに開催されました。生涯学習推進員平野区代表・吉田満明さん（喜連西小学校）、野田三恵子さん（長吉出戸小学校）、鳥居輝乃さん（加美小学校）に、コロナ禍の3年間を経て現在の状況や思いについてお話を聞きました。

再始動の気運の陰で

吉田さん「学校の中の事業ですから子どもたちに迷惑をかけてはいけないということで、自主的に活動を休止しているところもあって、そのうちにひとり去り、ふたり去り

して事業自体ができなくなったところが多かったです」



野田さん「学校からはゴーサインをいただいているんですけど、まだ

やっていないルームさんもあるようです。次のスタートが踏み出せなくなつたんですね。3年の間に気力も落ちてしまつたり。特に年配の方の3年は大きいですね」

鳥居さん「（休止期間を経て）教室を維持していきたいなっていう

ぐらいの人数を集めることについては、かなりハードルが高いです。何も連絡を取り合ってなかつたので…なかなか講座もできそうにならぬ状況だったので連絡も取つていませんでした」

4年ぶりの活動発表会

野田さん「区の連絡会も開催でき

第21回 平野区 生涯学習ルーム 活動発表会

会場
コミュニティプラザ平野

2023.6.4(日)



なかったのでね。連絡会が校区代表だけの集まりになっていたので一般の推進員さんからの情報が入ってこなかつた。それを踏まえたら今回、数少ない発表グループさん、作品展示のルームさんでしたが、また新しく始めようというきっかけができたのは良かったかなと。みんな（活動の楽しさ）思い出すきっかけになれたんじゃないかなと」



鳥居さん「みんなで何かやることって楽しいやんとか、こういうこともやらなあかん、集まろうよ、っていう気持ちを持ってもらえたんちがうかなって。私自身もそうですからよかったです」

若い仲間を増やしたい

鳥居さん「生涯学習ルームに参加するっていうのは、そんなお年寄

りのやつてることやんか、っていうイメージがすごく強すぎて、若い人が参加できる講座をしても、やっぱり頭にそれがつくと。私たちの子育てしていた時代と今の若いお母さんとでは、子育ての事情ってまったく違うので、今の若い人たちに来てもらえる講座を考えていかなといけないと思うんですよ」

「魅せる」ステージ



野田さん「うち夏休みにキッズダンスをやろうかなって思っているんです。夏休みだったら見学に来れる親御さんもいてるかな。そこからひろげていけたらいいなと。お試しの講座をして、それが定着していったら、だんだん若い世代を（生涯学習の活動に）ひきこんでいけるかなと」

●鳥居さんの校区ではコロナ禍も「ふれあい広場」を開催。毎年、

11月ごろコロナが下火になるタイミングに開催できたそうです。

鳥居さん「2年前やつたかな、ふれあい広場の講座をPTAさんに持つてもらわれへんかな、ってお願いしたことがあって、“考えてみます”って言ってくださつて、2つくらい講座もつてくれてはるかな。めちゃくちゃうれしかつたです」

吉田さん「ぼくもそうやつたけど、PTAや子ども会や青指（青少年指導員）の人で、ちょっと話できる人に声かけたり」

エントランスの作品展示の様子



つながりをつなぐ

野田さん「昔の（電話の）連絡網つてばかにしたらいかんなって思います。最近はLINEをするようになってメールを見てないっていう人もいます」

鳥居さん「私、去年（推進員研修に）行ったんです。対面でっていうことで、すごくうれしかつたです。久しぶりにみなさんと“これやんな！”みたいなね。みんなといっしょに前に進める楽しさというのをこれなんやつて」

●今年度の推進員研修はオンラインに加え対面研修も拡充します。受講できる場所と時間の選択肢が増えます。

野田さん「小学校のPTAの会長が息子の同級生で、“生涯さん、ものづくりしてくれへんか”とか声かけてもらつてるんで、やっぱりそれも人のつながりやなって思う」

鳥居さん「人のつながりって大きいです。それに今、ものすごい救われてます」

吉田さん「なんかね、“どうしたら

楽しい活動ができるの”って言われ

て、今から考えたら、駄菓子屋のおっさんになるのが一番楽しそうや

なと思ってるんです。集まつてきて

安いもん買って、わいわい言いな

がら食べて・・」

裏方の推進員さんがマイクセッティング



取材後記

これまでに経験のない3年間で、「共に生きる社会」の大切さが広く意識されるようになったのではないでしょうか。取材を通じて、高齢化や少子化が同時進行するなかで生涯学習の場がもたらすものは、個人の学びという狭義なものではなく、共に学び、共に成長しあえる地域社会の創生、ここで暮らしたいと思える魅力あるまちづくりにつながつているように感じました。

平野区のみなさま、ありがとうございました。